

# 甲府市廃棄物減量等推進審議会 令和5年度第1回審議会議事録

令和6年2月29日（木）午前10時～

甲府市環境センター3階 大会議室

出席者

（委員）

委員13名中12人出席 1名欠席

（事務局）

環境部長、環境総室長、環境対策室長、環境保全課長、環境対策課長、  
ごみ減量課長、ごみ減量係長、ごみ減量係主事

（傍聴者）

なし

第1回審議会

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事  
（1）答申（案）について  
（2）その他
- 4 閉会

議事要旨

- （1）答申（案）について

【事務局】

—答申（案）についての説明—

【委員】

答申案の4ページに、平成30年度に衛生センターの機械故障により、落葉の堆肥化が中止されたことが述べられている。機械故障が原因で中止されたということだが、修理には高額な費用がかかるのか。

【事務局】

機械の故障による修理費は高額である。そうした中、平成30年以降広域処理を検討

してきた経過もあり、現在、中央市の中巨摩地区広域事務組合衛生センターに、し尿と浄化槽汚泥の搬入をしている。そのため、肥料としての堆肥化は断念せざるを得なかった。

【委員】

答申案では、製品プラスチック分別回収や水切り運動、食品ロス削減などが提案されているが、現行のミックスペーパー回収が可燃ごみの減量に繋がらない傾向があるということで、あまり触れられていないが、そのことについて教えていただきたい。

【事務局】

ミックスペーパーの分別回収についても重要な取り組みであると認識をしている。私の家庭は2人家族で、一週間分のミックスペーパーの内容は、食品の箱が多くある一方で、領収書や明細書は電子化されていて少なくともなっている。また、紙袋も買い物などで貰っていたものが有料化されるなどの影響もあるなか、まだまだ無料で入手可能な現状である。このようにミックスペーパー回収量も一定量はあるため、引き続き周知啓発を行い、適切な分別排出を促進したい。

【委員】

資源ごみと有価物の回収の違いや回収回数異なる理由を知りたい。

【事務局】

資源物は行政が業者委託をして回収をしている。有価物は自治会が自主的に回収する。自治会が有価物回収を実施していない場合は、市が資源物回収を月1回行う。

【委員】

自治会の回収を行う場合は、どのような経緯で行われるのか。

【事務局】

各自治会で有価物回収の実施を判断し、現在回収していない自治会が実施する場合は、市に連絡をもらえれば、有価物回収業者の紹介をする。

【委員】

横沢地区では、自治会の高齢化により有価物回収が負担となり、市の資源物回収のみとした。資源物は市の回収に委ねられ、個人が地区別日程表に基づいて自己管理で出すようになったので、地区全体の収集問題は解消されている。

【会長】

情報提供に感謝する。

【委員】

山梨県古紙リサイクル協同組合と申します。

答申案の3ページの(4)ミックスペーパーの分別排出について、年間1,600トン前後のごみ削減に貢献している。紙の生産量の減少により、ミックスペーパーの量は減少傾向にあるが、分別をしっかりといただき、ミックスペーパーの回収量が増えるように、組合としても広報をしっかりと行っていきたい。

【事務局】

本市のミックスペーパーは、他市よりも多くの種類の物を収集している。例えば、フィルムやホッチキスの針が付いていても回収可能である。これらの特徴をPRしたい。

【委員】

甲府市資源物回収協働組合と申します。

ミックスペーパーの関連で、ダンボールを小さく切ってミックスペーパーに出す人がいる。ダンボールを間違った方法で処理しているため、資源の分別を徹底してほしい。

【事務局】

リサイクルの周知啓発が重要であり、答申もこのことを中心に据えられている。今後も周知活動を行っていく。

【委員】

ミックスペーパーの回収先を増やすことが重要である。他県では24時間回収する「もったいないボックス」を設置している民間の会社がある。回収した物を売り、病院に寄付している。行政も週1回収しているが、出せる時間に制限があるため、民間と連携して24時間出せる場所を提供してほしい。

【事務局】

資源物の店頭回収を増やす必要があり、市民に周知し、新たな拠点を設けることが必要である。協力する企業があるかを確認し、連絡することも考えている。

【委員】

答申を受け、製品プラスチックの回収について具体的なスケジュールが定められており、「いつから」「誰が」「予算をどうするか」などの計画を、議会でも取り組んでいきたいと考える。

【事務局】

答申を受けての5年間で、甲府・峡東クリーンセンター及び構成市である笛吹市・甲州市・山梨市等で話し合いを行い取り組んでいきたい。

【委員】

新たな取り組みとしての「ごみ袋の有料化の検討」について、これまで、この件については取り組まないとの回答があったが、変更の余地はないか。

【事務局】

令和5年度のごみ排出量は減少傾向となっており、審議会の議論の中でも、啓発活動で更なる削減が可能と考える。周知啓発でごみ排出削減に注力したい。

【委員】

市民に対してのごみ減量化への働きかけ方法には、有料のごみ袋導入や製品プラスチック回収の取り組みがある。プラスチック製容器包装の回収は時間をかけて浸透し、市民が分別すれば負担軽減と環境に配慮できることが理解された。製品プラスチック回収についても、無料で出せるようになれば市民の協力が期待できる。

私の考えとしては、ごみ袋を有料化することには反対である。

【会長】

先ほどの事務局の説明によると、当面はごみの排出は減少傾向であるので、あえて、この5年間でごみ袋有料化の検討をしなくても良いのではないか、という話であった。

長い目で見て、ごみの排出量が増加してきた時は、その段階でいろんな話が出てくると思う。

【委員】

甲府市廃棄物協業組合と申します。

私どもは家庭系の生ごみを収集しており、ごみが指定ごみ袋に入れられ、まとめて集積所へ出されるようになり、以前より集積所が綺麗になった。

その中での懸念として、廃棄物には家庭系と事業系があるが、事業系のごみも黄色いごみ袋に入れられてしまうと回収をしなければならない。

事業系の廃棄物を区別するような施策を考えてもらえれば、甲府市の家庭系のごみは減るのではないかと思う。

【事務局】

事業系のごみが家庭系のごみに混ざることについては、実態を把握できていない。事業者に対し、事業系のごみ専用の収集方法を啓発している。

現状に関わらず、事業系ごみの適切な処分は常に必要であるため、今後も同様の取り組みを継続する。

【会長】

他に意見がなければ、修正なしで答申を市長に提出すること決定する。答申は、会長と副会長で市長へ提出し、報告を委員に行う。

以 上